

— 私たち森林組合のめざすもの —

私たち森林組合は、地域の森林管理主体として、地域の森林を協同の力で育て守り続け、森林環境保全と林業発展を通じて、地球温暖化防止へ貢献するとともに、水源の保全、国土の安全、健全な森林環境と良質の木材を国民へ提供しながら、健康で安心、豊かな住生活を支えていくことを使命とします。

私たち森林組合の組合員・役職員は、こうした使命を自覚し、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主・自立、参加、民主的運営、公正、連帯等)に基づき行動します。そして、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、平和とより民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、私たち森林組合の組合員・役職員は、次のことを宣誓し、責任を持って行動します。

- 一、^{もり}森林の恵みに感謝し、^{もり}地球環境保全のため、豊かな森林を未来に引き継ごう。
- 一、^{もり}森林を守り育て、林業と山村を活性化しよう。
- 一、森林組合への積極的な参加によって、協同の力を発揮しよう。
- 一、自主・自立、民主的運営を基本に、開かれた組合経営を目指そう。
- 一、協同の理念と誇りある仕事を通じて、共に生きがい追求しよう。

【本所・中野支所】

〒383-0061 中野市大字壁田938番地1 TEL 0269-38-0371(代) FAX 0269-23-5350

●URL <http://www.jforest-kitashinshu.or.jp> ●E-mail musasabi@jforest-kitashinshu.or.jp

- ◆飯山支所 〒389-2255 飯山市大字静間383番地14 TEL 0269-62-8111 FAX 0269-62-8111
- ◆山ノ内支所 〒381-0405 山ノ内町大字夜間瀬6819-1 TEL 0269-33-8665 FAX 0269-33-8678
- ◆木島平支所 〒389-2302 木島平村大字往郷973-1 TEL 0269-82-3123 FAX 0269-82-3123
- ◆野沢温泉支所 〒389-2592 野沢温泉村大字豊郷9817 TEL 0269-67-0454 FAX 0269-85-3803
- ◆豊田事業所 〒389-2192 中野市大字豊津2508 TEL 0269-38-3111 FAX 0269-38-2774
- ◆ふるさと物産センターねりん 〒389-2613 野沢温泉村大字虫生2383-1 TEL 0269-85-4441 FAX 0269-85-4441

北信州森林組合

設立10周年記念誌



平成13年12月1日



平成22年12月16日



平成13年7月6日



平成22年12月16日

発刊にあたって

北信州森林組合 合併10周年を迎えて

代表理事組合長 高森 壽實夫



北信州森林組合は、全県的な広域合併の気運の高まりの中、組合関係者によって数年に亘る検討会や研究会を重ね、平成12年4月に「北信地区森林組合広域合併推進協議会」の設立をみて、平成13年12月1日、北信地方事務所管内の6森林組合が合併し、将来の森林・林業を見据える中、地域林業の中核的担い手としての森林組合を目指して発足いたしました。

この間、好景気に沸いたバブル経済の崩壊を経験し、後の激動する社会情勢の中で、木材価格は更なる低迷をし、木造住宅着工戸数の落ち込みなど、林業を取り巻く状況は悪化し、森林所有者の経営意欲は一層減退することとなりました。

また、昨年は東日本大震災や栄村を中心とした長野県北部地震の影響等により、経済状況は厳しい状況が続いております。

しかし、一方で地球温暖化対策による森林整備の推進が求められ、それによる国民の森林への関心の高まりや、国の木造施設の補助施策の設置等明るい話題もありました。

こうした状況の中で、当組合では間伐を中心とした地域の森林整備を一層進めることが出来ました。

昨年は、かねてより念願でありました森林組合本所（創森館）が完成し、役職員一丸となって地域林業の発展を進めるため、決意を新たにしたところであります。

今後も、組合員の「森林を持つ恩恵」を出来るだけ得られるよう、森林境界明確化を中心とした森林集約化事業を積極的に進め、林産班の増設や高性能林業機械の充実等により木材生産力を向上し、組合員への還元を図ってまいります。

そして、地域に森林があってよかったと云われるような森林整備を目指した事業を展開し、6森林組合が単に合併したことで終わることなく、5市町村に存在する森林を1つの地域として取り組める体制を一層拡充し、皆さんの期待に応えられる森林組合づくりに邁進したいと思っております。

この記念誌は、これまでの10年間を省みて、新たな森林組合の在るべき道を探るために発刊することとなりました。長野県、長野県森林組合連合会、管内市町村のご指導と組合員の皆様に感謝申し上げますとともに、今後とも組合員の皆様のご協力と関係指導機関の一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



10周年によせて

10周年記念誌発刊にあたり

初代組合長 小山 邦武



この度北信州森林組合設立10周年の記念誌を発刊されるに当たり、当時新組合発足に係わった者の一人として、一言お祝いを述べさせていただきます。

思い起こしますと、この地域の森林組合広域合併について研究をはじめたのが平成2年度からと記憶しております。それから10年後、平成12年4月に北信広域のうち栄村を除く6組合と行政が北信地区森林組合広域合併推進協議会を立ち上げ、精力的に検討を重ね平成13年の合併予備契約調印を経て、同年12月に無事合併を実現いたしました。その間、それぞれのお立場でご尽力されました関係の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げます。

光陰矢の如し、北信州森林組合発足から早くも10年経過しました。スタート当初は寄り合い所帯のための混乱もあったと思いますが、それを見事に克服され昨年12月には新庁舎も完成し、新たな気持ちで仕事に励んでおられることと拝察申し上げます。高森組合長さんをご先頭に役職員一丸となって努力されてこられた結果と心からの祝意を表します。

さて、森林づくり県民税などが実行されるなど、森林整備に県民の関心は高まってはいるものの、木材価格の低迷や担い手不足により林業を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いております。そういう中であって森林組合に寄せる期待は一層高まっております。北信州の美しい景観を守るためにも皆様のご活躍が必要です。創立10周年を契機として、組合長さんを中心に役職員の皆様が益々活躍されますことを祈念し、お祝いの言葉とします。

広域合併十周年を記念して

二代組合長 森 昭和



広域合併をして北信州森林組合も十周年を迎えることになり、誠にありがとうございます。

森林組合に課せられた責務である、国土の三分の二を占める森林の整備は極めて大変な事業であります。国土保全のために締結された京都議定書は、申し上げるまでもなく、二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止をはじめ、雨水による土壌の浸食や水源かん養の促進のために締結されておりますが、必ずしも計画通りの推進がなされておらず将来に不安を残しております。

近年、加工技術の発展により間伐材や広葉樹林の利用が普及するようになり、木材利用も拡大しつつあります。しかし、依然として木材価格が低迷し、所有者の森林手入れの意欲は低く、林業後継者も減少し、林家の高齢化が大きな問題になっております。

今後の森林づくりを進めるにあたっては、こうした多くの問題が山積みしておることを認識することも大切であろうと思います。

今日、木材貿易量の増加や原油高から外材輸入を取り巻く状況に不透明さが高まり、国産材を見直す動きもみられるようになりました。

今後、木の香りのする公共施設や住宅をはじめとする建築資材の安定的な供給が必要となる一方、バイオマス利用促進による暖房燃料としてのペレットなど暖房用燃料が開発され、薪やペレットなどのストーブやボイラーなどの普及により、木材資源の運用を考慮することも大切なことであろうと思います。

終わりになりましたが、日頃大変ご苦勞を頂いております役職員をはじめ組合員の皆様のご健勝と一層の御盡力をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

創立10周年をお祝いして

長野県林務部長 久米 義輝

このたびは、北信州森林組合が設立されて以来10周年を迎えられましたことに対し、心からお祝い申し上げます。

顧みれば、北信州森林組合は将来を見据えた経営基盤強化のため、平成13年度に中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、豊田村の各森林組合が広域合併されました。

この間役員一丸となって、厳しい林業の経営環境の中、森林組合の発展と組合員の経済的、社会的地位の向上にご尽力されるとともに、地域林業の中核的担い手として、活躍されてきた功績は誠に多大なものであります。

特に、森林整備を効率的・計画的に推進するため、県内の森林組合の中でも早い時期に森林GISを導入し、森林境界情報・森林資源情報の電子化や持続的に適切な施業提案を行うシステムの確立に取り組みされてきたことは、他の森林組合の模範となり、高く評価されるものであります。

一方で、地域の森林・林業を巡る状況は木材価格の下落、過疎化や高齢化による後継者不足など、依然として厳しい状況にあります。

こうした状況のもとで、森林整備を着実に進め、持続的かつ計画的に木材生産を行い、地域の林業を再生していくためには、地域の森林・林業の将来の姿をしっかりと見据え、最適な森林経営計画を立案し、また、路網の整備や高性能林業機械を組み合わせた効率的な生産を担うことが、極めて重要であります。

結びに、この10周年を契機としまして、更に関係各位が意を新たにされ、貴森林組合の強化と林業及び地域の振興のため、一層ご活躍されますことをご期待申し上げますとともに、貴森林組合の更なる発展と、組合員各位のご多幸をお祈り申し上げましてお祝いの言葉といたします。



北信州森林組合設立10周年を祝して

長野県森林組合連合会 代表理事会長 藤原 忠彦

北信州森林組合が平成13年に発足されて以来、これまで着実な歩みを続けられ、10周年という記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴森林組合におかれましては、発足以来の歩みを鑑みますと、この10年という年月の変化に適切に対応され、地域森林林業のリーダーとして突き進まれたこと、その功績は誠に大きなものがございます。

さて、森林組合は、明治40年森林法での制度創設以来、行政と連携を取りながら地域林業の協業化・共同化に取り組む山村の活性化、定住化に寄与してきました。

こうして森林所有者とともに営々と育ててきた森林資源が利用期を迎える中、森林に対する国民ニーズの多様化や森林林業を巡る情勢の変化等を踏まえ、国は21年12月にコンクリートから木の社会へと題して「森林林業再生プラン」を策定し、10年後までに木材自給率を50%以上にすることを目標に掲げ、路網整備、森林施業の集約化及び人材育成を軸として国産材の利用拡大に取り組む方向を示しました。

この理念・目標は森林組合員はもとより国内のすべての林業家が望んできたことであり、まさに貴森林組合がこの10年の間に取り組んできた方向でもあります。それはいち早くGISの導入による施業の集約化を推進し、高性能林業機械による作業効率化を図りつつ、低コスト作業に取り組むといった姿勢に表れております。

長野県内の森林組合は「国産材の利用拡大と流通改革」「提案型集約化施業の重点実施と持続可能な低コスト林業の確立」「組合員、国民の信頼を得る組織、経営の確立」を3つのテーマとして『森林組合活動二十一世紀ビジョン』3rdステージ『国産材の利用拡大と森林・林業再生運動』(2011～15)に取り組む、組合員の期待に応え得る組織・事業体へと改革を進めていますが、貴森林組合が先頭に立って運動推進に邁進され改革の実を挙げられますことをご期待申し上げます。

結びに、貴森林組合並びに会員皆様のご活躍とご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



北信州森林組合設立10周年にあたり

北信林業振興会長 芳川 修二

北信州森林組合が発足し10年という節目を迎えられたことに対しまして、まずもってお祝い申し上げます。

平成13年12月、当時6市町村の森林組合が合併をされ、現在の北信州森林組合となられたわけですが、この10年間で管内の森林整備は今まで以上の速さで進んでまいりました。

この背景には、北信州森林組合の企業努力があったからといえるのではないのでしょうか。施業体制の見直し、高性能林業機械の導入による作業効率の向上など、地域の森林整備を行ううえで、必要不可欠な事業体に成長されたことは間違いありません。

しかしながら、林業を取り巻く情勢は依然厳しい状況が続いております。平成21年に国が示しました「森林・林業再生プラン」では、今後国内における木材自給率を50%に引き上げることを目標とし、様々な方針が示されました。この背景として、海外からの輸入木材が安価に入手しやすい状況になり、国産の木材供給量は下降の一途をたどっていることが挙げられます。日本全体が、日常生活で使用するエネルギーを化石燃料へ転換したことにより、木材利用の減少に拍車をかけるだけでなく、国内の林業において、材価の低迷、林業従事者の減少を招く状況となっております。

しかし近年では、代替エネルギーとして、森林資源を利用することに再度関心が高まってきたことや、鳥獣被害を防ぐために里山整備を進める動きが出てくるなど、森林に対する関心は高まっています。また、現在計画されています「森林経営計画」においても、搬出を伴う森林整備が主とされており、今まで以上に地域の木材利用について、考えなくてはならない時となっております。行政としましても、木材利用方針を策定するなど、木材の利用に取り組んでいるところであります。

今後この地域は伐期を迎える森林が増え、今以上に森林整備にかかる労力は増えてきます。そのような中で森林組合という存在が重要視され、更なる活躍が期待される所です。この地域の中で核となる林業事業体として、より一層の御発展をされますようご祈念申し上げます。



合併予備契約調印

平成13年7月6日

以上の条項を契約した証として本契約書13通を作成し、それぞれが各一通を所持する。

平成13年7月6日

長野県中野市三好町1丁目3番19号
中野市森林組合
代表理事組合長

原 修一郎

長野県下高井郡山ノ内町大字夜間瀬6819-1
山ノ内町森林組合
代表理事組合長

中山 茂樹

長野県下高井郡木島平村大字往郷973-1
木島平村森林組合
代表理事組合長

柳 淳万寿雄

長野県下高井郡野沢温泉村大字豊郷9817
野沢温泉村森林組合
代表理事組合長

富井 喜義

長野県飯山市大字飯山1110-1
飯山市森林組合
代表理事組合長

小山 邦武

長野県下水内郡豊田村大字豊津395-1
豊田村森林組合
代表理事組合長

清野 真不生

立 会 人

長野県北信地方事務所
所 長

小林 一美

長野県中野市
中野市長

綿貫 隆夫

長野県飯山市
飯山市長

小山 邦武

長野県下高井郡山ノ内町
山ノ内町長

中山 茂樹

長野県下高井郡木島平村
木島平村長

柳 淳万寿雄

長野県下高井郡野沢温泉村
野沢温泉村長

久保田 哲夫

長野県下水内郡豊田村
豊田村長

清野 真不生

北信州森林組合 10年のあゆみ



●平成13年度

13.12.1 開所式・合併祝賀会
小山邦武氏 組合長に就任

●平成14年度

14.3.1 組合広報むささび創刊
14.4.22 第1回通常総代会 飯山市公民館
14.10.30~31 先進地視察 京都府日吉町森林組合
15.1.17 県林業関係コンクール 間伐の部
中野市 市村明氏 県緑の基金理事長賞
中野市 渡辺栄次氏 県森連会長賞
15.1.30 木材破砕機ブラッシュチップパー導入
15.2 県入札改革始まる 異業種からの参入

●平成15年度

15.4.16 第2回通常総代会
JA北信州みゆき野沢温泉支所大ホール
15.4~ フォレストコミュニティ総合整備事業
始まる(H19まで)
16.1.19 県林業関係コンクール間伐の部
豊田村南永江自治会 県知事賞
中野市高社山四区共有林 県森連会長賞

●平成16年度

16.4.27 第3回通常総代会
山ノ内町よませ活性化センター
16.5.29 長野県植樹祭開催 飯山市
16.8.20 高性能林業機械スイングヤーダ導入
16.8~ カシノナガキクイムシ被害発生 飯山市
16.10.14 長野県ふるさとの森林づくり条例公布
16.10.20 新潟中越地震
16.11.1 野沢温泉村ホールアースの森調印
(株)デサント
森林の里親促進事業



●平成17年度

17.3.17 臨時総代会 本所会議室
17.4.1 中野市・豊田村合併
17.4.20 第4回通常総代会
中野市豊田文化センター
17.5.11 森昭和氏 組合長に就任
17.6.10 信州の森林づくりアクションプラン策定
17.7.22 国土交通省から山村保全事業受注
17.12.1 高性能林業機械プロセッサ導入
17.12.27 飯山市豪雪対策本部設置 H18 豪雪
18.1.18 長野県ふるさとの森林づくり賞
●森林づくりの部
中野市 間山区 県知事賞
中野市 渡辺則雄氏 県林業経営者協会会長賞
●森林づくり推進の部
山ノ内町 堀米憲一郎 県猟友会長賞

●平成18年度

18.4.21 第5回通常総代会 飯山市公民館
18.10.30 高性能林業機械プロセッサ導入
18.12 ペレットストーブ導入展示
ペレット販売始める
18.12~ 70年ぶりの異常寡雪

●平成19年度

19.4~ 森林吸収源対策始まる
19.4~ 中野市で山林火災多発する
19.4.24 第6回通常総会
JA北信州みゆき野沢温泉支所大ホール
19.5.25 山ノ内町 バンダイナムコの森調印
バンダイナムコグループ
森林の里親促進事業
19.7.16 新潟県中越沖地震
飯山市・中野市で被害
19.12.21 森林づくり県民税 県議会で可決



森林GIS展示



本所建設用地



竣工・開所式



阿部知事来組

●平成20年度

- 20.4.1 長野県森林づくり県民税条例施行
- 20.4.22 第7回通常総代会
パノラマランド木島平
森林組合活動21世紀ビジョン
2ndステージ承認
- 20.4.23 原修一郎氏 組合長に就任
- 20.5 全森連 施業集約化・供給情報集積事業
始める
- 20.12.26 森林GISソフトウェア導入

●平成21年度

- 21.4.25 第8回通常総代会
山ノ内町よませ活性化センター
- 21.6 県に森林整備加速化・林業再生基金設置される
- 21.8.17 高性能林業機械フォワーダ導入
- 21.8.29 原組合長が逝去される
- 21.9.5 高森壽實夫氏 組合長に就任
- 21.9.19 臨時総代会
山ノ内町よませ活性化センター
本所建設決定される
- 22.1.28 本所用地売買契約

●平成22年度

- 22.5.1 高性能林業機械プロセッサ導入
(3年リース契約)
高性能林業機械スイングヤーダ導入
(3年リース契約)
- 22.5.8 第9回通常総代会
アップレンティなかの
- 22.6.30 本所起工式
- 22.8.26 本所上棟式
- 22.12.16 本所竣工・開所式
- 22.12.20 本所(創森館)で業務始める
- 23.1.19 阿部知事を本所に迎える
(情報誌 KURA 取材)
- 23.3.11 東日本大震災
- 23.3.12 長野県北部地震
- 23.7.25 中核森林組合に認定されました

歴代役員

役 職	H13.12~	H15.5~	H16.5~	H17.5~	H19.5~	H20.5~	H21.9~	H23.5~
代表理事組合長	小山 邦武	小山 邦武	小山 邦武	森 昭和	森 昭和	原 修一郎	高森壽實夫	高森壽實夫
副組合長理事	中山 茂樹	中山 茂樹	中山 茂樹	竹節 邦男	竹節 邦男	高森壽實夫	高橋 善造	中山 稿一
副組合長理事	富井 喜義	富井 喜義	富井 喜義			高橋 善造	中山 稿一	
総務委員長	森 昭和	森 昭和	森 昭和	原 修一郎	原 修一郎	中山 稿一	小根澤庄一	小根澤庄一
業務委員長	原 修一郎	原 修一郎	原 修一郎	坂井 昭男	坂井 昭男	山本 茂樹	山本 茂樹	山本 茂樹
総務副委員長				高橋 善造	高橋 善造	小根澤庄一	小林 裕正	小林 裕正
業務副委員長				村田 宗之	村田 宗之	小山 孝治	小山 孝治	小山 孝治
理 事	綿貫 隆夫	綿貫 隆夫	青木 一	小根沢庄一	小根沢庄一	高野福一郎	高野福一郎	竹内 義明
"	柳澤萬壽雄	木内 正勝	木内 正勝	中山 稿一	中山 稿一	小林 裕正	小杉 莊平	藤田 忠良
"	高橋 善造	柳澤萬壽雄	柳澤萬壽雄	山崎 桂二	高森壽實夫	小杉 莊平	石川 幹雄	小杉 莊平
"	清野真木生	高橋 善造	高橋 善造	高森壽實夫	山本 茂樹	石川 幹雄	宮澤 章榮	石川 幹雄
"	小根沢庄一	清野真木生	清野真木生	山本 茂樹	石川 幹雄	宮澤 章榮	嶋田 晴男	宮澤 章榮
"	山本 啓文	小根沢庄一	小根沢庄一	石川 幹雄	富井 喜義	嶋田 晴男	高橋剛太郎	齋藤 虎雄
"	山岸 信夫	山本 啓文	山本 啓文	富井 喜義	山田潤一郎	高橋剛太郎	佐藤 卓造	嶋田 晴男
"	本山 剛史	山岸 信夫	山岸 信夫	山田潤一郎	高橋剛太郎	佐藤 卓造	塚田源一郎	高野福一郎
"	久保田哲夫	本山 剛史	本山 剛史	高橋剛太郎	北沢弥紀男	塚田源一郎	鈴木 幸憲	佐藤 卓造
"	今清水一男	久保田哲夫	久保田哲夫	北沢弥紀男	本山 剛史	鈴木 幸憲	竹田 勇	小淵 喜由
"	山本 茂樹	今清水一男	今清水一男	本山 剛史	竹田 勇	竹田 勇	嶋田 喜一	富井 繁雄
"	村田 宗之	山本 茂樹	山本 茂樹	竹田 勇	小林 正治	嶋田 喜一	小林 正治	竹田 勇
"	山田潤一郎	村田 宗之	村田 宗之			小林 正治		
"	竹節 邦男	山田潤一郎	山田潤一郎					
"	北沢弥紀男	竹節 邦男	竹節 邦男					
"	本山日出雄	北沢弥紀男	北沢弥紀男					
"	宮澤 義明	本山日出雄	本山日出雄					
"	坂井 昭男	坂井 昭男	坂井 昭男					
"	小林 忠栄	小林 忠栄	小林 忠栄					
代表監事	関口 隆信	関口 隆信	関口 隆信	山田吉太郎	山田吉太郎	斉藤 虎雄	斉藤 虎雄	坪根 繁喜
監 事	大木 幸治	宮澤 義明	宮澤 義明	嶋田 晴男	嶋田 晴男	坪根 繁喜	坪根 繁喜	山本 明秀
"	滝沢 信幸	滝沢 信幸	滝沢 信幸	斉藤 虎雄	斉藤 虎雄	山本 明秀	山本 明秀	鈴木 幸憲

損益計算書から見る10年

(千円)

科目	年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
A	収益	149,992	654,993	511,852	484,202	442,856	442,220	504,912	487,476	498,017	499,687
B	費用	95,615	477,525	396,127	370,426	344,031	379,322	394,909	399,510	376,691	363,806
C	事業総利益 A - B	54,378	177,468	115,724	113,776	98,825	62,898	110,003	87,966	121,326	135,881
D	事業管理費	54,720	144,848	119,817	110,694	102,326	103,283	97,190	89,731	94,005	107,477
E	事業利益 C - D	-342	32,620	-4,093	3,082	-3,500	-40,385	12,813	-1,764	27,321	28,404
F	事業外損益	2,972	1,195	2,326	1,597	3,584	5,218	5,412	12,322	7,608	14,915
G	事業外収益	1,205	3,639	3,459	3,478	4,657	3,491	6,467	4,422	7,874	7,936
H	事業外費用 F - G	1,767	-2,444	-1,134	-1,881	-1,073	1,727	-1,055	7,901	-267	6,979
I	経常利益 E + H	1,424	30,176	-5,227	1,201	-4,573	-38,658	11,758	6,136	27,054	35,383
J	特別利益	6,072	4,873	9,745	7,719	0	10,259	219	1,195	5,897	34,529
K	特別損失	3,900	3,976	4,273	7,461	0	9,674	1,122	3,742	8,130	44,418
L	特別損益 J - K	2,172	897	5,471	258	0	586	-903	-2,547	-2,233	-9,889
M	税引前純利益 I + L	3,596	31,073	245	1,459	-4,573	-38,073	10,855	3,589	24,822	25,494
N	税額	1,300	12,000	0	895	702	739	739	739	742	742
O	当期剰余金 M - N	2,296	19,073	245	564	-5,275	-38,812	10,116	2,850	24,080	24,753
P	前期繰越剰余金	48,005	22,301	21,374	19,831	16,395	7,120	0	4,024	3,375	9,455
Q	処分剰余金 O + P	50,301	41,374	21,619	20,395	11,120	-31,692	10,116	6,875	27,455	34,207

資本の状況

基準日	14.2.28	15.2.28	16.2.29	17.2.28	18.2.28	19.2.28	20.2.29	21.2.28	22.2.28	23.2.28
出資金	94,364,900	93,555,900	93,530,300	93,445,500	93,187,500	93,123,100	93,115,100	93,084,300	92,995,700	92,972,100
法定準備金	135,091,400	140,091,400	149,091,400	150,000,000	151,000,000	152,000,000	152,000,000	154,400,000	155,900,000	163,900,000
資本準備金	222,720	454,120	587,380	583,280	582,680	585,080	570,980	570,980	571,380	571,380
特別積立金	220,120,564	243,120,564	254,120,564	255,000,000	258,000,000	261,000,000	229,308,336	233,000,000	235,000,000	245,000,000
当期剰余金	2,296,113	19,072,920	244,698	564,127	-5,275,339	-38,811,508	10,116,128	2,850,266	24,080,037	24,752,610
前期繰越金	48,005,361	22,301,474	21,374,394	19,831,056	16,395,183	7,119,844	0	4,024,464	3,374,730	9,454,767
合計	500,101,058	518,596,378	518,948,736	519,423,963	513,890,024	475,016,516	485,110,544	487,930,010	511,921,847	536,650,857

組合員の状況

合併時	H13末	H14末	H15末	H16末	H17末	H18末	H19末	H20末	H21末	H22末
正組員数	6,489	6,237	6,189	6,157	6,145	6,116	6,090	6,071	6,057	6,044
加入数		10	4	7	3	4	1		2	1
脱退数		6	256	52	15	33	27	19	16	14

合併以来多くの方が脱退されました。H23年分も合わせると499名になります。
山林の売買や後継者がいないなど様々な理由はありますが、今後、組合員にとって
魅力ある組合になるよう頑張ってまいります。

受ける時代から創る時代へ

主要な事業の状況

(千円)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
森林整備	189,913	119,142	120,638	93,802	116,267	111,757	134,849	112,933	155,782
県発注工事	74,000	25,866	35,207	21,780	25,548	36,501	35,076	28,453	24,375
利用事業	62,754	47,402	49,366	43,565	39,192	40,209	46,106	33,352	52,244
除雪事業	152,208	149,392	143,086	157,953	63,204	132,974	100,964	127,580	103,988
病虫害防除	38,452	21,779	11,864	4,548	4,561	7,674	22,157	11,972	6,447
施設管理	22,779	22,067	16,296	17,845	14,760	13,876	6,207	5,893	5,633
その他	12,879	28,696	26,038	33,250	36,942	34,461	20,100	55,392	51,219
合計	552,985	414,344	402,494	372,743	300,473	377,453	365,459	375,575	399,689

(森林整備・利用部門)

合併当初は県や市町村から発注される事業が中心でした。しかし、公共事業が減少する中で、組合員等との受委託契約による森林組合が自ら事業主体となる森林整備へと転換してまいりました。これを行うため職員の業務も、組合員等への説明などの営業活動や境界明確化作業とそれにとりまなう調査・測量や森林GISのオペレーションなどが主になっていきます。

組合員等からの受託事業の状況

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
面積 (ha)	88	83	106	238	250	239	261	380	470
補助金額(千円)	25,466	29,597	36,429	76,294	64,081	67,196	80,751	121,297	132,665

木材生産量の状況

(m)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
受託林産	404	1,827	1,678	3,168	3,216	7,724	4,890	4,043	5,398	5,185
買取林産	7	195	1,037	824	580	356	1,132	22		563
国有林生産請負						792	399	2,010		4,488
合計	411	2,022	2,715	3,992	3,796	8,872	6,421	6,075	5,398	10,236

国内自給率 50%に向けて

森林・林業基本計画で定められた平成32年度に木材自給率50%以上を目指して、当組合でも高性能林業機械の導入と直営林産班の配備を進めています。現在3班12名体制ですが、今後5班20名体制とする計画です。それにとりまなう高性能林業機械も順次導入を計画しています。

組合で活躍する高性能林業機械



●プロセッサ 313CCR KETO150P



●スイングヤーダ 307C 9 × 9C504



●プロセッサ・スイングヤーダ CT500 GP532 TW202L



●フォワーダ U-3BG



●フォワーダ U-4BW



●プロセッサ EX120 GP35T



●スイングヤーダ ZX120 TW-302A

